

レーザーコンパス

特殊性と一般性

末松 安晴*

Yasuharu SUEMATSU*

特殊と一般、主観と客観、あるいは地域と国際とか言われるような二つの概念の差は、時間的な制約を離れると大変漠然として来るように思われる。蒸気機関はもともと炭鉱の揚水用に特殊に開発された物であるが、これが工場や機関車に使われる様になり動力源として一般化した。絵や詩等の芸術作品は卓越した芸術家の主観的な個性から生まれるが、それが優れていれば多くの人々の共感を呼び、客観性すら帯びてくる。宗教も或る人の強烈な主観から生れるが時を得れば大変一般的になり、長期間に亘って広範囲に影響を与え人々の間に普遍する。英語は元々イングランド地域にのみ使われていた方言の一種であったが、今は広く国際的に用いられている。

深められた特殊性は時と共に一般化に繋がる。大きな用途を背景に持つ特殊性が一般化されれば国家的産業が成立する。

研究の目標を一般的な観点から求めようとすると大変漠然としてしまい、捕え様が無い。し

かし、身近な分野で進歩を妨げている。特殊であるが基本的な問題を取り上げれば、問題意識が鮮烈で、理解度も深く鋭く、その解決も自ずと楽に出来ると共に、周到な配慮が為される。一旦その様にして問題提起が為され、解決が進めば、深化もなされ易い。独自性すら現われる。それが材料の問題であれば新材料開発に繋がろうし、動作に関係すれば新理論が構築される可能性があるだろう。その解決が深まれば一般化された分野に発展しよう。このようにして出現した新しい分野の例はトランジスタやレーザーを始め枚挙に暇がない。

特殊と思われるのが以外に一般的である事が多い。時間と共に移って行く。技術革新の激しい昨今では、特殊な考えかたが何時の間にか一般化した考えと成り、特殊な物が何時の間にか一般的に使われていたりする。特殊な物が一般化する時間が随分早まった印象の強いこの頃である。

* 東京工業大学工学部 (〒227 横浜市緑区長津田)

* Research Laboratory of Precision Machinery and Electronics, Tokyo Institute of Technology, (Nagatsuta, Midori-ku, Yokohama, Kanagawa 227)